

Louis Moyses (Flute)
Concertino
di Kyoto

ルイ・モイース フルート・コンチェルティーノ ティキョウト(絃楽合奏)

第15回 演奏会



精進十五年のごほうび

コンチエルティノー・ディ・キョートの第15周年の、記念すべき今回のコンサートに、好運にも、来日中のフリュートの大家、ルイ・モイーズ先生を迎えて、すばらしい演奏会が催されることは、何とすてきなことでしょう。

井手先生、新井先生、野村先生のコンビで、多年育成し、その音楽的成長、又美しい絃の音の大きな成長を育てて下さった美しい絃楽団、恐らく、モイーズ先生の美しいフリュートと、その優れた音楽性との共演によって、今晚の演奏は、人々に強い感銘を与えることと思います。

又、ルイ・モイーズ先生の名演奏は、恐らくそのやわらかく美しい音色と共に、共演する絃楽団の価値を、音楽的に一段と高く引きあげ、絃楽団員、全員のすばらしく尊い経験ともなることであろうと思います。

十五ヶ年の精進、よくつづいてその成長が護られてきたことは、尊いことであると思います。そのごほうびが今日のコンサート。

ルイ・モイーズ先生に心からの拍手と感謝をおくと共に、多年の努力をつみ重ねて今日この世界的大家との共演の喜びをもつことの出来たコンチエルティノー・ディ・キョート絃楽団にも、大いに拍手をおくっていただきたいと思います。心からのお喜びをおくと共に、ご盛会を祈ります。

鈴木 鎮 一



ルイ・モイーズ

ルイ・モイーズ（フルート独奏）

Luis Moyse

フランス国籍で、オランダのシェベニンゲンに生れる。第二次世界大戦の間、フランス軍に従軍していた。1959年にアメリカ国籍となる。

パリ音楽院（パリ・コンサーバトリー・オブ・ミュージック）で学ぶ。

指揮者、フルーティスト、そして作曲家として有名な、フィリップ・ゴウバールから、フルートを学ぶ。そして父であるマルセル・モイーズのクラスから1932年に一等賞を受ける。

イサドラ・フィリップとジョセフ・ベンベヌウティよりピアノを学び、ハーモニーと作曲をユージ・ビゴーに学ぶ。

1932年より1948年にかけて、マルセル・モイーズのアシスタント、そしてレコーディングの伴奏者、コンサーバトリーのピアニストとして活躍する。

ユージン・ビゴー指揮による、ラムルー・オーケストラ、フランス・ラジオ・オーケストラ、そして、トスカニーニなどの国際的な指揮者によるストララム・オーケストラのフルート奏者として活躍する。

演奏旅行においては、バッハのブランデンブルグ・コンチェルトの時、アドルフ・ブッシュ室内楽団でフルーティストとして活躍。又、ロンド

ルイ・モイーズ夫妻



ンのビクターにおいて、それをレコーディングする。

モイーズ・トリオ（父マルセル・モイーズと、妻であるブランシュ・オネガー・モイーズとで成されている）では、フルートとピアノを受持っている。又、妻とは何回かバイオリン・ソナタのリサイタルも開いている。

モイーズ・トリオは、ヨーロッパ、南アメリカ、アメリカ合衆国を演奏旅行し、ビクター、デッカ、コロムビア、ウソリレ等の会社でレコーディングを重ねる。

1938年には、最優秀賞であるインター・ナショナル・グランプリ・ドウ・ディスクを授与される。

マールボロ大学のフルート、ピアノ、室内楽の教授となる為、1948年フランスを立ち、ヴァーモント州のプラトルボロに居をかまえる。

父マルセル・モイーズと妻、そしてハーマン・ブッシュ、ルドルフ・ゼルキンとマールボロ・ミュージック・スクールを起し、そして同年マールボロ音楽祭を始める。

1951年に、ブランシュ、モイーズによって設立された、プラトルボロ・ミュージック・センターをディレクトする。

1960年、スイスのローザンヌ近くのサンプリにピアニストのデニス・ビダルと妻とで室内楽のサ

マスクールを始める。

ルイ・モイーズは、マールボロ・フェスティバルでの活動期間中、室内楽の大部分の作品を演奏し、監督した。又、コロムビア・レコード版のドボルザークのセレナード（作品44）に代表される様な、室内楽曲、及び木管楽器、弦楽器のための沢山の作品を、マールボロ・フェスティバルにおいて指揮し指導した。

マールボロ・フェスティバルでは、彼の作品の中のいくつかのものが初演されている。

過去何回となく招聘の準備を重ねたが、一度も実現せず、今搬始めて本会の求めに応じて来日する父、マルセル・モイーズと共に、来日が実現、演奏会が決定した訳です。

ちなみに彼の妻ブランシュ・オネゲル・モイーズは、大作曲家オネゲルの娘さんで、マールボロ・カレッジの教授で、バッハのカンタータ、室内楽及びバイオリンを主に教えており、毎年マールボロ音楽祭では、音楽祭管弦楽団及び合唱団を指揮して、バッハのカンタータを演奏する程の権威ある音楽家です。

来日中、機会があれば、ルイ・モイーズ氏の指揮及び、バッハのカンタータを試みようとする合唱団の指導をすることも計画されております。



To Mr. Arai
Kyoto concert. #
Nov. 18. 73



Louis Moyse

ルイ・モイーズ
と高橋利夫

ノット

To Mr. Arai
with my warmest regards
and souvenirs.

Many thanks for your
thoughtfulness and friendship
Concertino

コンチエルティーノ

Takahashi
指揮 高橋利
指導 新井 覚
Nov. 18. 1973

ルイ・モイーズ先生をむかえての今夜のコンサ
でもある。コンチエルティーノのレパートリーは
グリーグ、ドボルザーク、チャイコフスキー等80
氏をはじめ、吉田雅夫氏、丸山盛三氏、辛島輝治
全員アマチュアで才能教育の会員であるが、今夜
いる。



di Kyoto

ディ キョート

夫
覚

ートは、コンチエルティーノの第十五回記念公演
、ビバルディ、バッハ、ヘンデル、モーツァルト、
曲余を数え、又共演者も今夜のモイーズ氏、高橋
氏等第一級のアーティスト達である。メンバーは
は管のセクションは大阪管楽合奏団の協力を得て

Member

1st Violin.....田中 信介	Cello.....壁瀬雅比古
水野 敬子	吉田 顕
江村 孝文	米原 徹
高木 泉	Double Base...森田 昭
松村裕美子	
2nd Violin.....田原 明子	Cembalo.....鳴海 温子
長尾まや子	Oboe.....荒木 好二
結城三紀子	辻野 宏一
木村 英道	
Viola.....仲佐 悦子	Horn.....梅本 薫
成宮 憲一	野田 篁一
新井 覚	Basoon.....大崎 健一

高橋利夫 (指揮とフルート)

高橋利夫氏は、1937年松本で生れた。1963年以降鈴木
鎮一氏に師事し、音楽解釈を学び、又独自にモイーズ奏
法を追求した。

1965年から3年間アメリカへ留学した。

モイーズ氏及びウィリアム・キンケード氏に師事、この
間66年度マールボロ音楽祭に参加、ニューヨークでレコ
ード吹込、ニューヨーク、フィラデルフィア、ロスアン
ゼルス等を演奏旅行し好評を拍する。

帰国後、吉田雅夫氏と「モイーズ研究会」を主宰し、
又才能教育研究会フルート科主任である。又、クエノン
合奏団を主催するかたわら、コンチエルティーノにもし
ばしば指導共演、今年は同合奏団を指揮するほか、ルイ
・モイーズとチマローザのドッペルコンチェルトの第二
フルートを受けもつ。



マルセル・モイーズ
と高橋利夫

PROGRAMMA

- 1 Suite No. 2 B minor BWV 1067..... J. S. BACH
 - Overture
 - Rondeau
 - Sarabande
 - Bouree
 - Poronaise
 - Menuette
 - Badinerie
- 2 Concerto in G major for Two Flutes D. CIMAROSA
 - Allegro vivo
 - Lent
 - Rondo
- 3 Brandenburg Concerto No.3 G major BWV 1048 ...J.S.BACH
 - Allegro — Cadenza
 - Allegro
- 4 Flute Concerto No.1 G major KV 313..... W.A.MOZART
 - Allegro
 - Adagio non troppo
 - Rondo



プログラム

- 1 組曲 第2番 短調 BWV 1067 バッハ
 - 序曲
 - ロンド
 - サラバンド
 - ブーレ
 - ポロネーズ
 - メヌエット
 - バディネリ
- 2 二本のフルートのための協奏曲 ト長調.....チマローザ
(編 ルイ・モイーズ)
 - アレグロ ビボ
 - レント
 - ロンド
- 3 ブランデンブルグ協奏曲 第3番 ト長調 BWV 1048 バッハ
 - アレグロ
 - アレグロ
- 4 フルート協奏曲 第1番 ト長調 KV 313.....モーツァルト
 - アレグロ
 - アダージョ ノン トロッポ
 - ロンド



左より
ルイ・モイーズ
マルセル・モイーズ
高橋利夫

マルセル・モイーズ
と高橋利夫



曲目解説

管弦楽組曲 第2番 短調

ヨハン・セバスチャン・バッハ
(1685~1750)

この組曲は1本のフルートと弦楽のためのもので、ブランデンブルク協奏曲とほぼ同じく1720年ごろに作曲された。フルートは合奏の一部というよりむしろ明らかに独奏として、フルート協奏曲に準じた扱いをうけている。第1曲は本曲の前半

をなす大規模なフランス風序曲で、付点リズムを主とした荘重な緩徐部にはじまる。つゞく主部はアレグロの軽やかに進行するフーガで、所々にフルートの独奏をはさんでいる。終りの緩徐部は冒頭の主題にもとづくが、3拍子に変化されている。曲の後半は6つの小曲で、舞曲を主とし、いずれも練達の筆で書かれた名曲である。なかでもポロネーズの中間部ではフルートが華々しい活躍を見せる。最後のバディネリは舞曲ではないが、喜びを表現する急速快活な曲である。

ブランデンブルク協奏曲 第3番 ト長調

ヨハン・セバスチャン・バッハ
(1685~1750)

6曲のブランデンブルク協奏曲は1曲ごとに異なる楽器編成をもち、驚くほどの多様性を示して、バロック協奏曲の頂点といわれる名作である。しかし一方、この多様性自体がバロック音楽の変質解体が近づいたことを暗示しているとも云えよう。第3番はバイオリン・ビオラ・チェロを各3部にわけ、コンティヌオと共に計10部の弦楽合奏のために作られた。第2楽章ではチェロがコンティヌオと合流して7部となるが、このように分けられた各パートは合奏協奏曲の独奏部と合奏部を掛け持つような性格を与えられることとなった。2つのアレグロ楽章だけから成り、中間にアダージョで2つの和音が書かれているが、ここでチェンバロのカデンツァが奏されることが多い。全曲にわたり喜びの感情が支配する壮大な合奏曲である。

2つのフルートのための協奏曲 ト長調

ドメニコ・チマローザ
(1749~1801)

チマローザはちょうどハイドンやモーツァルトと同時代に活躍したイタリアオペラの作曲家で、その名声は全ヨーロッパに及んでいた。作品として「秘密の結婚」をはじめとする歌劇が70ばかりもあるが、今日上演される機会はごく少ないようである。器楽曲ではオーボエ協奏曲が有名で、ほかに交響曲やチェンバロソナタなども残されている。

この曲は典型的な古典派協奏曲の形式で作られていて、第1楽章の提示はまず管弦楽で奏されるが、以後は2本のフルートの華やかな協奏が曲を主導する。親しみやすい旋律をもつ楽しい曲で、新鮮な明るさを感じさせる。なお、本日の演奏はルイ・モイーズ氏の編曲による。



ルイ・モイーズ

フルート協奏曲 第1番 ト長調

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
(1756~1791)

1777年秋から翌78年の春まで、モーツァルトは当時有数の文化都市であったマンハイムに滞在した。彼はこの町で多くのすぐれた音楽家たちと交わり、ヨーロッパ随一と云われたオーケストラをきいて「マンハイム楽派」の技法を吸収することができた。モーツァルトのフルートのための曲大

部分がこの時期に集中的に作曲されており、この協奏曲もその中に含まれる。オリジナルのフルート協奏曲としては彼の唯一の作品（第2番はオーボエ協奏曲からの改作）で、型通りの古典協奏曲の形式をとっているが、強弱の対照が著明で「豪壮な」と評されたマンハイム楽派の影響が所々に見られる。終曲のロンドにメヌエット風の性格をもたせ、さりげなく弱奏で曲を終るのもこの頃のモーツァルトが好んで用いた手法の一つである。



各種自動車修理
鍍金塗装

指定工場 京津いすず 日産プリンス 日産南サニー

(株)村田自動車工業所

京都市南区東九条南河辺町24
電話 (075) 681-1244(代表)

内 科
小 児 科
レントゲン科

白 数 医 院

京都市中京区錦小路通室町西入

医師 白 数 久 兵 衛 電話 221-1280番

今週のプログラム

パート・ワゴン 特選

- フル・J・ワルター指揮 フィラデルフィア管弦楽団
 - 交響曲 第I番
 - 交響曲 第II番
- シヤード・バーンヌタイン指揮 ニューヨークフィルハーモニック
 - 交響曲 第V番

と き: 〇月〇日 (土) PM 8:00

と ころ: 我家アサヒカールーム

週末のコンサートは
家族そろって 御自分の音で!

お茶を飲みながらの楽しいコンサート

ほの音できたえたあなたの耳で あなたの音を作ってみ
さい。コンサートアサヒカールームはそんなアサヒカールーム。

京都オーディオ界の老舗

アサヒムセン

京都市中京区河原町三条上ル東入 TEL 231-4475



主催 / 社団法人才能教育研究会京都支部